

様式1

平成23年度 学校評価表

尾道市立東生口小学校

a ミッション		a ビジョン												
○授業研究の充実による基礎学力の向上 ○地域人材の積極的活用による特色ある教育活動の推進		○基礎学力が定着し、学力が向上する学校 ○挨拶と笑顔があふれる美しい学校 ○地域とともに歩み、信頼され誇りに思える学校												
評価計画				自己評価				学校関係者評価				改善計画		
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月		h 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明	k 二次評価			l コメント	m 改善案
					g 達成値	g 達成値				イ	ロ	ハ		
確かな学力の向上	◎国語科、算数科における基礎・基本の徹底	○国語科「話すこと・聞くこと」領域の授業研究を通して、指導法の改善を図る。 ○チャレンジ・ドリルタイムの充実を図る。 ○学習規律（東生口スタンダード）を視覚的に表示し、指導と評価の徹底を図る。	・国語科単元テスト「話すこと・聞くこと」100点の児童の割合 ・基礎・基本定着状況調査、標準学力テストの通算率 ・東生口スタンダードの各学期重点項目（5）の定着児童	100% 市平均 100%	47% 86% 84%		72%	C	・標準学力テストが市平均より10ポイントだった。特に低かったのは算数で数量関係やグラフや表の読み取り・乗法・除法の問題であった。夏季休業中に実際に即してプリント作成を行い、チャレンジタイムやドリルタイムにおいて学力補完を行う。 ・学期ごと・月ごと・週ごとに重点目標を決め、黒板に掲示したり、視覚的に意識できる工夫をし、目標に近づけることができた。しかし、全員の児童が達成できていないので児童自身にも方策を考えさせ、主体的な活動にしてい	○			○評価指標の数が多く、どこか達成度が低い項目が1つでもあるとその数値に達成度の%が引っ張られ評価がCになっている。その場合Cという評価が適正であるのか疑問です。 ○読書活動に重点を置いているのがよくわかった。また、読書活動の環境作りも進められているので効果を期待しています。達成度が高まってくると思っています。	・基礎学力の定着を図るために、個に視点を当ててどこでつまづいているかを明確にして、それを補完するための練習問題を徹底して取り組ませていく。 ・評価指標については、一年間通しての割合になっているものは学期毎の指標に変えて正確に評価ができるようにしていく。（作品応募における入賞者は各学年各学期25%、ノートチャンピオンに選ばれる児童は毎月1名） ・読書活動においては、学校図書館活用利用計画を作成し、授業と図書館活用を結びつけてより活用を充実させていく。また、図書館便りの発行・親子リレー読書・集団読書をとり入れ、読書への興味関心を持たせながら保護者へも読書の重要性を啓発していく。
	◎読書活動の活性化	○読書活動を授業と関連づける。 ○図書委員会を中心に読み聞かせ活動を学期に3回以上実施する。 ○地域ボランティア・学校図書館支援センターを活用する。	・必要情報を得るため図書館を活用する児童（アンケート） ・目標読書ページ数（冊数）の達成とおすめ本読破の児童（学期に高3000ページ・中2000ページ・低50冊） ・「本が好きである」児童（アンケート）	100% 90% 100%	98% 67% 68%		83%	B	・学校図書館活用計画を作成し、計画的活用を図る。 ・図書委員会の活動の活性化を図り、読書への興味関心を持たせる。 ・「親子リレー読書」の取り組みにより家庭読書の啓発を行う。 ・「本が好き」という割合が低かった。読書環境の整備・読書集会・給食時間のお話タイム、そして朝読書において集団読書などの取り組みを行う。	○				
	◎挨拶・返事の徹底	○教職員率先垂範と評価活動を実施する。 （大きな声で、相手を見て、自分から進んで、立ち止まって、笑顔で）	・地域、保護者によるアンケート「挨拶・返事がよくなる」評価 ・児童、教職員による「挨拶・返事がよくなる」評価	95% 100%	74% 93%		85%	B	・「大きな声で、相手を見て、自分から進んで、笑顔で」の挨拶を目指してきたが、学校ではできているものが、地域に帰ると「自分から進んで」挨拶をしないことがある。確実に挨拶を身に付けるために、児童の心構えに訴えていきたい。 ・立ち止まって、相手の目を見て、名前を呼んで挨拶することは、児童の中に定着しつつある。特に立ち止まって挨拶する児童の数は増加してきている。学校の中でできている事が、地域でもできるように定着化を図ってきたい。	○				
豊かな人間性を育成	◎道徳の授業の充実	○授業研究を実施し、指導法の工夫・改善を図る。	・児童の自己肯定感の高まり（アンケート）	100%	82%		82%	B	・道徳の授業を中心に学校生活全般においても、道徳性を培うことで82%の児童の自己肯定感を高めることができた。 ・地域公開における道徳授業を通して、学校・家庭・地域が一体となって取り組みを進める。	○			○挨拶は生活の上において基本になるものです。学校だけでできるのでは意味がありません。校外での挨拶が今後の課題です。指導は大変だと思いますが、保護者の皆さんの協力も必要だと思います。 ○達成度の出さ基がほとんどアンケートの結果によるものなので今後もう少し達成度の出し方を考える必要があります。	・挨拶については、学校では「大きな声で、相手を見て、自分から進んで、笑顔で」の挨拶をする児童が増えてきています。今後は、地域の中でも進んで挨拶できるように、地域・保護者に協力していただいて声掛けをしながら取り組みを進めていく。 ・道徳の授業では、様々な教材を資料として利用し授業を充実させていく。また、道徳の授業公開において、地域のゲストティーチャーを招聘して授業を行うことで地域との交流を深めていく。
	◎体験活動の充実	○地域、保護者が参画する体験活動を年2回以上実施する。	・児童アンケートによる体験活動への肯定的評価	100%	90%		90%	B	・ふれあい参観日で、芝生の植え付けやカレーライスの屋敷、綱引き、ドッジボールと保護者・地域の方と有意義な時間を過ごす事ができ、児童も保護者や地域との一体感を感じることができた。	○				
	◎学習意欲の高まる環境づくり	○児童作品等に肯定的な評価を行い、学びが広がる計画的な掲示を行う。 ○教室の整理・整頓をし、学習環境を整える。	・地域、保護者によるアンケート「学習環境が効果的で、整っている。」評価	100%	83%		83%	B	・保護者は、「おむね学習環境は整っている」と感じている。今後、教室内の掲示だけでなく、玄関・廊下階段・踊り場などにも、児童の肯定的な評価を行った作品を掲示し、学習への興味関心を持たせる学習環境作りをしていく必要がある。	○				
健やかな体の育成	◎給食の残菜「0」	○給食の配膳を効率的に行い、食べる時間の十分な確保を行う。	・毎月の食育の日19日を合わせた1週間食へ残しゼロの児童	90%	87%		96%	B	・12:40には食事開始ができるように食事時間の確保をした。残菜を少なくするため、食育のおかずを全部つぎきるようになっている。食べ残しをする児童が固定化している傾向があるので、実態を捉え家庭との連携を図る。	○			○目標値は100%にして評価指標を決めてはどうでしょうか。 ○業間マラソンは走ることに地図の距離が伸びるなど子どものやる気を促す工夫が必要です。	・毎月1週間（食育の日、19日を含む週）、食べ残し児童を把握し、継続的に食べ残し0に取組んでいく。 ・児童が、意欲的に業間マラソンができるように、マラソカードを活用する。また、毎月トラック5周のタイムを測定し、学期終わりに学期始めより向上した児童を、表彰する。
	◎基礎的な運動能力の向上	○業間マラソンの継続と自己評価による意欲喚起を行う。	・毎学期の初めと終わりのトラック5周のタイムが向上している児童	50%				C	・ほとんどの児童が5週走っている。熱中症の形態により、1学期の終わりにタイムを測ることができなかった。計画的な測定、マラソカードの作成などをし、子どもの意欲付けをして3学期予定のマラソン大会についでいく。	○				
信頼される学校	◎地域人材の活用による特色ある教育活動の推進	○地域人材をゲストティーチャーとして積極的な活用を図る。	・ゲストティーチャー・保護者によるアンケート肯定的評価	90%				C	・1学期は、地域人材の活用の計画のみに終わった。 ・2学期は、計画に沿って取り組んでいく。	○			○「校長室から教室へ」ということを大切にし地域人材の活用を計画的に行い、より開かれた学校づくりを推進する。 ・ホームページをリニューアルしふるさと東生口を発信していく。また、学校だけでなく、学校と地域の連携の様子を掲載し地域と共にある東生口小学校を発信していく。	
	◎保護者・地域の方との信頼関係の深化	○ホームページの改善により地域と連携した学校情報の積極的な発信を行う。（学級・学校便り月2回以上・HP更新月1回以上） ○「お互いさまの活動づくり」の活動を中心に地域との連携を図る。	・参観日の保護者参加率 ・学校行事等の地域の方の参加数各学期50人 ・参観日や行事等において保護者・地域の方のアンケート肯定的評価	100% 100% 95%	100% 47% 93%		89%	B	・ホームページは、定期的に更新はできている。 ・ホームページリニューアルを予定している。（夏季休業中） ・お互いさまの活動づくりで校庭の芝生生活活動に70名余りの方の参加があった。 ・参観日の保護者の参加率は、行事を組んだので100%の参加率だった。	○				

【外部評価】 イ：自己評価は適正である。ロ：自己評価は適正でない。 ハ：わからない。